

Close-up  
Interview

(7月号 表紙の顔)

三浦 美里  
MISATO MIURA「プロでの1勝が目標だったけど  
もっともっとと欲が出てきました」自身にとっては2021年の初戦となったグリコセブンティーンアイス杯で、  
念願の初タイトルを獲得した三浦美里プロ。コロナ禍で投げられない時期に自  
分と向き合い、ボウリングへの気持ちを新たにしての8年目のタイトル奪取  
だった。(PHOTO:馬場高志)プロへの道が開けた  
濃密な高校3年間—グリコセブンティーンアイ  
ス杯での初優勝は、反響があり  
ましたか。周りの方が本当に喜んでくれ  
て、うれしさが倍増しました。  
ただタイトルホルダーといわれ  
るにはまだ馴染めなくて、  
おどおどしてしまいます(笑)。  
早く堂々とできるように、その  
ためにはこれからがいちばん大  
事な時期だと思います。—ボウリングを始めたのは、  
ご両親の影響ですか。そうです。両親がボウラー  
だったので、子供のころから一  
緒についていました。合格はし  
ななかったけど、二人ともプロ  
テストを受けているんです。母  
はもし受かっていれば、酒井美  
佳プロらと同期(25期)だった  
そうです(笑)。—それではご自身もずっと  
プロを目指していたのですか。そうでもなくて、中学では卓  
球部に入り、部活が忙しくてボ  
ウリングからは離れてしまいま  
した。高校に入るときにもう一  
度ボウリングをしたいと思い両  
親に相談すると「やるならきち  
んと指導を受けられるところ  
を」と勧められ、矢野欽太プロ  
(30期)がコーチをされていた  
釜利谷高校に進学しました。—プロテスト受験はいつ決  
めたのですか。2年生のときに、プロになり  
たいと矢野プロに伝え、高校卒  
業直後の2014年に受験しまし  
た。本格的にやったのは高校の  
3年間だけだったし、個人戦で  
はほとんど実績もなかったの  
で不安の方が大きかったけど、  
合格できたのは矢野プロの指導  
で中身の濃い3年間を送らせて  
もらったおかげだと思います。—プロの世界に飛び込んで  
みていかがでしたか。最初のころは影も形もない  
ぐらい散々でした。手首をけが  
して、気にしながら投げたりと▲「投げるだけでなく、いろんな  
面でお手本になれるように…」と、  
プロとしての視野も広がってきたいうこともありましたが、自分  
のボウリングにすごく悩んだ3  
年間でした。—4年目にランキング26位  
で初の第2シードに入りました。今の自分を受け入れることを  
意識して練習に取り組んだら、  
少しずつ結果が出始め、結果が  
出るにつれ自信がついてきた感  
じです。ただその後も第1シ  
ードが壁になっていました。プリ  
ンスカップと全日本選手権に苦  
手意識があって、第1シードが  
視野に入るところで12月を迎  
えても、いちばん大事な時期に  
どうしても成績が出なくて、第  
2シードどまりというパターン  
が多かったですね。今年はそん  
な心配がない状況で12月を迎  
えたいと思います(笑)。コロナ・ブランクが  
ボウリングに好影響—2019年のラウンドワンJ  
PBA決勝大会は、初タイトル  
にあと一歩まで迫る準優勝でし  
た。決勝トーナメントは、今まで  
にないくらいいい感覚でうまく  
投げられました。ただ優勝決定  
戦は初めての経験、しかも相手  
が姫路麗プロということで、す  
ごく緊張しました。—まったく同ピンで10フレ  
勝負になりました。ポケットには行ったけど⑩ピ  
ンが残り、2投目はカバーポー  
ルでしっかり投げたけど、曲  
がってミスになってしまいました。  
スピアのときも、きちんと  
コンディションを読んで取りに  
いけないといけないことを、改  
めて思い知らされました。—この敗戦は引きずりました  
か？引きずりました。あの時の動  
画を何十回も見て、どうやっ  
たら⑩ピンへの苦手意識を払拭  
できるんだろうと考えているう  
ちに、1年が終わってしまった感  
じです。—2020年に入ると、コロナ  
禍で練習もままならない時期が  
あったと思います。この機会に一度頭からボウリ  
ングってワードもなくして、投  
げたいって気持ちになるまで休  
んでみようと思いました。半年  
間ぐらいは投げなかったです  
が、やっぱり悔しいままでは終  
われない、改めて投げたいとい▲コロナ禍で約半年投げなかった  
ことが、逆にボウリングに好影響  
をもたらせたう気持ちが次第に強くなってい  
きました。—半年も離れていて、すぐに  
感覚は戻ったのですか？戻らなかったです。全身筋肉  
痛でした(笑)。こんなに重いも  
のを投げているんだなという  
のを改めて感じて、それまで自  
分でコントロールしようとして  
いたのを、ボールに身を任せるよ  
うなスタイルが変わってしま  
った。力が抜けたおかげで再現  
性が増しました。—オールスターゲームの出  
場権がなかったので、今年の開幕  
戦がグリコセブンティーンアイ  
ス杯でした。開幕戦はいつも不安なんです  
が、予選からうまくいきすぎ  
というぐらいよかったです。でも  
優勝決定戦では、10フレのミ  
スで負けたラウンドワンのこと  
が頭をよぎりました。—1マーク余りのリードを  
保っての10フレでした。8フレの⑦⑩スプリットをど  
う判断したらいいのかわから  
なくて、オイルの多いところに  
寄ったけど、思ったよりもス  
ピードが乗ってしまった。割れ  
なくてよかったけど、5本カウ  
ント、しかも取りづらい左側の  
ピンが残って、結局カバーでき  
ずにオープンにしてしまいました。  
大嶋(有香)プロがしっかり  
投げたのを見て、ああ終わ  
ったなと思ったけど⑩ピンタ  
ップ。自分で勝ち取ったという  
よりは、何かの力が私に勝たせ  
てくれたのかなと思いました。—この優勝は、今後に向けて  
自信になりそうですか。そうですね。ただもっとも  
とやれること、やらなければ  
いけないことがたくさん見つ  
かった試合でもありました。今  
より次、次よりもその次と成長  
できるように、立ち止まっている

暇はありません。

—タイトルホルダーの仲間入  
りをしました。今後はどこを目  
指しますか。プロボウラーの理想像が姫路  
プロなんです。両立は難しいは  
ずなのに、あれだけ成績を残し  
ながら、副会長としても私たち  
の先頭に立って引っ張ってく  
れている。普段の立ち居振る舞  
いを含めて、少しでも近づける  
ように努力したいと思います。  
(取材協力:川崎グランドボウル)三浦美里プロと一緒に投げよう！  
近日開催予定のチャレンジマッチ

- 7月10日  
愛知・オレンジボウル豊川店
- 7月11日  
三重・オレンジボウル桑名店
- 7月17日  
東京・立川スターレーン
- 7月18日  
静岡・狐ヶ崎ヤングランドボウル
- 7月22日  
兵庫・神戸六甲ボウル
- 7月24日  
福島・福島オークラボウル(お客様企画)
- 7月25日  
ラウンドワンLIVEチャレンジ  
東京・南砂店(配信店舗)
- 7月27日  
神奈川・タチバナボウル
- 7月31日  
愛知・オレンジボウル豊川店
- 8月1日  
三重・オレンジボウル桑名店
- 8月7日  
新潟・サウンドボウル見附店
- 8月8日  
新潟・サウンドボウル六日町店
- 8月9日  
三重・伊賀にんにんボウル(優勝記念大会)

みうら・みさと / 1996年3月14日  
生まれ、神奈川県出身。右投げ。2014  
年プロ入り(47期/ライセンスNo.  
520)。優勝1回。20・21年ランキ  
ング23位(6月末時点)。所属・フリー